

みなさんこんにちは。

トリルと申します。私はベルゲン出身で、今ベルゲン大学で日本語を勉強しています。

もっと前には溶接工員として働いていました。二年前に日本に旅行したとき、日本文化が大好きになりました。そのあと私は、溶接工員の仕事を辞めました。その代わりに、夢を追いかけて、日本語を勉強することにしました。実はかなり若い時から日本に興味がありました。

今日、私が一番好きな日本の小説家の話をします。

私は十四歳まであまり本を読んでいませんでした。本を読むのはつまらないと思っていました。しかし私の友達、村上春樹さんの本をくれたときから、それは変わりました。「海辺のカフカ」という本です。

この物語には、家出を決めた十五歳の少年と猫と話すことができる男性が登場します。リアリズムとシュルレアリスムが組み合わせられています。素晴らしい物語です。それをきっかけに、私は村上春樹さんのほかの本も読み始めました。

村上春樹さんは千九百四十九年に生まれました。彼は西洋の作家に触発されています。だから彼の文章は日本国外の人にとって、とても読みやすいです。また同時に、彼の本には神秘的なものがあります。

私にとって、村上春樹さんは日本文化を知るための窓になりました。今、日本語を勉強できてとても嬉しいです。

みなさん聞いてくれてありがとうございました。